

Sotto



[京都自死・自殺相談センター]

[そっと Vol.123 7月号]

10周年リレーコラム 第十二回

よく知られているように、釈尊の教えでは、この世での人生は苦だとされます。そういう意味では、人生を苦だと感じている人のみが、仏教を学ぶ資格、条件を備えていることになります。しかし、大学の仏教の講義などで「人生は苦ですか？」と問いかけても、それに肯定的に応答する学生はほとんどいません。どう考えたらいいのでしょうか？さらに釈尊は、「解脱」しない限り、この人生を終えても苦しみの生存は限りなく繰り返されると説きました。でも現代社会に生きる私たちは、苦しく辛いときもあるけれど、また楽しいこともあるんだという楽観的な思いで日々の生活を送っているのでしょうか。それに科学がいくら発達しても来世のことなど知ることはできないのですから。

Sottoのような自死に関する相談センターの活動に依るのでしょうが、一時期は毎年3万人を超えていた自ら命を絶つ方々の数も減少しつつあったのが、続くコロナ禍のなかで、亡くなる方が、特に若い世代の中で増えているとのこと。なぜなのでしょう？『新約聖書』のなかに、パウロの言葉として「信仰、希望、愛のうち、最も大切なものは愛だ」という句があります。「信仰」ではないことも興味深し、「愛」だというのも「いかにも」という感もあります。私はなぜか「希望」が好きです。なぜなら「絶望」がもっとも嫌いだから。

Sottoの活動が、十年の経験を活かし、絶望に押しつぶされそうなかたがたにとって、一筋の希望の光となってほしいと切に願っています。

浄土真宗本願寺派総合研究所所長 兼 東京支所長 丘山 新





誰がために医師はいる

—クスリとヒトの現代論—

著者 松本俊彦

私はどちらかというと速読だが、この本はあえて休憩を取りながら、時間をかけてゆっくり読んだ。何故なら面白すぎて一気に読みするには勿体ないと思ったからである。

松本氏が医学部を卒業した当時は「**残念ながら依存症専門医の多くは薬物依存患者は診たくないと考えていた**」時代であり、自身も「**薬物依存症の患者は、私のなかで診たくない患者のランキング第一位に位置づけられていた**」と記す。率直である。しかもこの本は学術的でありながら情緒的で、知的でありながら思わず吹き出してしまう可笑しみも混在している。

若き松本氏が何故、依存症専門病院に赴任することになったのか、その経緯や臨床の場でのさまざまなエピソードを語りつつ、松本氏は精神科医になって25年を経た現在、はからずも自分がアディクション（嗜癖問題）臨床に回帰していることを運命であったと振り返る。

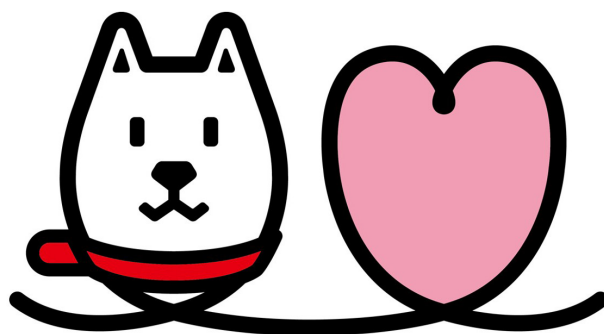
ところで、この本の中には「京都自死自殺相談センター Sotto」のメンバーである私たちがまずは関心をもつ自殺について、多くの事例や松本氏の見識が書かれている。あれこれ抜き書きしたいところであるが、紙面の関係上、少しだけピックアップしておきたい。

松本氏はかつて精神医学の世界を支配してきた「**悩んでいる患者に対して安易に自殺念慮について質問してはいけない**」という説は噴飯物の神話だと断言している。そしてこれまで自殺の予防にかかわってきた大切な学びとして、以下の2つを挙げている「**一つは、本人が真に強く自殺を決意したら、いかなる治療や支援にも限界がある**」こと。「**もう一つは、そうはいつでも人は最後まで迷っている**」と。私も自殺にまつわる活動の関係者として、こうした事柄が広く、且つ正しく認知されることを希求する。

最終章は松本氏が20代から好きだったという音楽、レゲエの話。「**ラスタ（レゲエ）用語に「アヤナイ&I」という表現がある。ラスタマンたちは、「あなたと私 You & I」という代わりに、この「アヤナイ=私と私」を使うという。…アヤナイは「相手との間に垣根を作らない。相手を自分のことのように思う」という態度なのだ。**」と結論にむかっている。説得や支配ではなく患者と治療同盟を築く松本氏のあり方の原点はここにあるのかもしれない。

理事 廣谷ゆみ子

「つながる募金」 導入しました



つながる募金

私たち Sotto の活動は、皆さまからの寄付金によって成り立っています。

このたび、Sotto への支援方法の選択肢に「つながる募金」が加わりました。ソフトバンクのスマートフォンをご利用の方は、毎月の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、貯まったTポイントでの寄付も可能です。また、ソフトバンクのスマートフォン以外をご利用の方もクレジットカードを使った寄付が可能です。

詳しくは団体ホームページの寄付・支援のページからご参照ください。自死・自殺にまつわる様々な苦悩を抱える方を支えるために、今後ともご協力の程よろしくお願いたします。



Tポイントで寄付



どなたでも可能
クレジットカードで寄付



SoftBank のスマホから
ご利用料金とまとめて寄付



「つながる募金」は Sotto ホームページの寄付ページ中頃にあります。

今月のことば

二人の人間がまっすぐ向き合って、相手の気持ちを真剣に配慮しながら対話をしているとき、そこで話しているのは、二人のうちのどちらでもないものなんです。

(内田樹)

活動報告

- 6月電話相談件数・・・72件（無言9件）
- 電話相談委員会・・・グループ研修 6/17 参加9名
- 6月期メール相談件数・・・受信92件、送信79件
- メール相談委員会・・・委員会会議 6/9 参加5名、6/23 参加5名
- 居場所づくり委員会・・・委員会会議 6/21 参加10名
おでんの会”からだ・こころリラックスの場” 6/2 申込11名（参加9名）
- グリーフサポート委員会・・・委員会会議 6/21 参加10名
そっとたいむ 6/1 申込1名（参加1名）
- 広報発信委員会・・・委員会会議 6/20 参加3名、6/27 参加3名
- 映画委員会・・・委員会会議 6/21 参加10名
ころころシネマ 6/16 申込5名（参加3名）

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）2021年6月1日～30日受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派
株式会社エクザム
葛野洋明

長嶋 蓮慧
荻野 昭裕
京都市・一念寺
京都市・西岸寺
西林 佳秋
歩きの善ちゃん
寒香 香代

大谷 範子
みやま市・浄弘寺（下川弘暎）
岐阜市・法久寺（本田 龍司）
矢野 利生
八代市・大法寺（大松 龍昭）
松山市・西福寺
森 直道
大江 眞
霜尾 孝紹
霜尾 光江
京都市・雲晴寺

呉市・宝徳寺
広島市・万福寺
上越市・正福寺
笠松 弘隆
豊中市・専敬寺（島本 泰雄）
武蔵野市・源正寺（上杉 泰顕）
高橋 浩文
藤森 観海
林 友佳子
寺本 ジ芳
高田 文英

八尾市・恵光寺
柏原市・了雲寺
小林 秀明
川村 和人
正満良
津市・妙華寺
松本 裕子

匿名 11名
(syncable 寄付者含む)

Sotto コメント
蒸し暑い日が続きますがお身体に
気を付けて (A・Y)

発行 2021年7月

認定特定非営利活動法人
京都自死・自殺相談センター事務局

〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92

T E L 075-365-1600

U R L <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp



クレジットカードでこちらから
寄付していただけます